

序 文

今年からいよいよ21世紀に入りました。厳しい環境の中ではありますが、技術職員の方々も、気持ちを新たに、大学全体および工学研究科の次の発展に向けて、今まで以上に力を尽くしていただきたいと思います。

20世紀後半、科学技術は、飛躍的進歩を遂げ、我々の生活を豊かにすると同時に、環境の悪化や資源・エネルギーの枯渇等の負の遺産も残しました。今世紀は、それらの負の遺産を抑制しつつ、次の科学技術の発展を目指すことが必要であり、大学もそれに貢献することが強く望まれています。

名古屋大学工学部では、このような科学技術の発展および新しい課題に対応するために、他に先駆けて大学院重点化を進め、新しい組織を平成9年度に完成させました。しかし、教育研究の内容は、今後さらに継続的に充実・発展させていかななくてはなりません。そのためには、教官が不断の努力を重ねていくことは勿論ですが、併せて高度な専門技術能力を有する技術職員の支援が不可欠です。したがって、技術職員もその能力をさらに高めるための努力を継続的に行っていかななくてはなりません。

本技術部技術報告書は、上記のような認識のもとに、技術職員の方々が、業務の中で達成した技術成果の技術報告とその専門技術能力を高めるための一環として、自ら企画し、実施した課題技術研修と学科技術研修の結果をまとめたものです。これは、技術職員自身の努力の成果の記録であると同時に、工学研究科教官および外部にその活動内容を発信する意味も有しています。教官の方々には是非関心を持って本報告書をご覧くださいと思います。

本「技報」を発行するに当たっての関係者並びに技術研修を企画・実施するに当たってご協力いただいた関係者の方々には、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

大学は現在、定員削減や法人化問題等、厳しく、難しい問題を抱えていますが、そういう状況にあるからこそ、個人個人が高い専門能力を修得することが必要です。技術職員の方々には、業務の中での技術研鑽や研修の成果を今後技術支援の面で活かすとともに、引き続き組織的・個人的に自己研鑽の努力を続けてくださることを期待しています。

平成13年3月

工学研究科長・技術部長
後藤俊夫